

地域・離島歯科医療実習 レポート

学籍番号：4318100413

氏名：福元 雄大

実習先：小宝島 宝島

実習期間：令和5年 6月19日 ~ 6月25日

1. 自然環境

十島村は、屋久島と奄美大島の間に、有人七島と無人島とからなる南北約160kmという「南北に長い村」です。

宝島はトカラ列島の有人島では南端の島で、隆起したサンゴ礁でできたハート形をした島です。昔イギリスの海賊、キャプテンキッドが財宝を隠したという言い伝えがあり、財宝を隠したという鍾乳洞もあります。サンゴ礁に囲まれた海のエメラルドグリーンと白い砂浜のコントラストが美しい島です。

小宝島は宝島の北東約16kmにある隆起サンゴ礁でできた周囲約4kmの小さな島です。アダンやソテツが生い茂り、道路わきにはハイビスカスが咲き乱れる亜熱帯情緒あふれる島です。30分程度歩けば島が一周でき、海上から見ると妊婦さんのように見えます。立神と呼ばれる多くの奇岩が海岸線にそびえ立ち幻想的な景観を織りなし、中でもウネ神、赤立神などは見ごたえがあります。

2. 社会的背景

小宝島の人口は54人(令和4年時点)でその半分が学校関係で小宝島小中学校の教職員、児童と生徒です。

宝島の人口は123人(令和4年時点)で最近増加傾向です。

十島村では山海留学生の受け入れもしています。山海留学とは、本土の小学校や中学校から生活の場を移し、離島の小学校や中学校に通学し、学校教育を受けつつ、自然を受け入れ、自然のすばらしさ、きびしさを学ぶことで、生きる喜びや自信、経験の領域を広げることが目的とした制度です。山海留学制度を平成3年度よりスタートし、児童生徒を村内に受け入れることにより、地域や学校、教育の活性化を図ることや子どもが島で生活することで、豊かな自然に触れ、素朴な人情の温かさに接し、心の触れ合いの大切さを学び、元気でたくましい子どもを育てることを目的としています。

小宝島は定期船が接岸できる港が平成2年までなく、艀作業が国内で最後まで行われていた島です。

3. 住民の生活

宝島には売店が一つあり、小宝島には売店がありません。小宝島には自動販売機が1つあります。

宝島にはガソリンスタンドが1つ整備されています。生活物資は島唯一の交通手段であるフェリーとしま2によって本土、もしくは奄美大島から運ばれてきます。コープなどを利用して個人的に取り寄せることが多いそうです。フェリーとしま2を港につける通船業務は島の人たちが協力して行っており、仕事の最中でも島の皆さんは協力して行っています。島には運送会社がないため、荷役を取り扱う組合を住民で組織しています。小宝島では小宝島小中学校に荷物を運び、島民で仕分けを行っています。島では親だけが育てるのではなく地域が子供たちを育てるというのが当たり前となっています。島の人々は島での生活をこれまでも、そしてこれからも守るため力を合わせて生活しています。

4. 医療供給体制

医療については、病院がなく、各島に村立の「へき地診療所」があり、1名ずつ看護師が常勤しています。また常駐医師が鹿児島赤十字病院から3ヶ月交代で長期派遣され、中之島を拠点に上4島の巡回診療をしています。また、下3島については、中之島の常駐医師以外の鹿児島赤十字病院の医師が月2回程度巡回して住民の診療にあたっています。その他、鹿児島こども病院による小児診療や鹿児島大学による眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科、歯科など特定診療科の診療も行われています。介護については、平成24年度から宝島で「小規模多機能ホームたから」が開所し「島民が住み慣れた島でいつまでも生活できる村づくり」を目標に、他の島への波及も目指しています。

緊急時にはヘリコプターを用いた緊急搬送も行われています。しかし、病院からのヘリコプターは明るい時間しか飛行できないため、夜間や悪天候時は自衛隊のヘリコプターが導入されることもあるそうです。しかし、それには手続きの関係で時間がかかり、また悪天候の場合はヘリコプターの飛行がそもそもできない場合もあるそうです。

実習概要

日付	内 容
R5.6.19	<p>23時：フェリー出航 多くの方に見送りに来ていただき、差し入れもたくさんいただきました。ありがとうございました。</p>   

R5.6.20 10:45 小宝島到着

到着後宿に移動し、その後すぐに診療の準備をしました。



午後：診療および学校健診

小中学生の学校健診の歯式をとらせてもらいました。

成人の엑스線写真撮影のアシストをさせてもらいました。

엑스線撮影はデジタルではなく、フィルムを現像液に浸して現像しました。



診療後は先生方や同級生と、目の前に海が広がる天然温泉湯泊温泉に行きました。



R.5.6.21 午前：診療および小宝島小中学校でのブラッシング講話
先生と同級生が講話を行い、その後、児童、生徒にブラッシング指導を行いました。



午後：成人および小児の診療
患児の摂食状況を、小中学校の給食の時間に確認に行きました。



R5.6.22 午前：小宝島へのフェリーの時間まで、島を歩いて一周しました。
島の自然に触れることができ良かったです。



午後：小宝島から宝島に移動
島に到着後すぐにコミュニティセンターで診療の準備を行いました。
こじか号とも合流しました。
そして宝島小中学生の学校健診を行いました。



宝島では滞在期間中晴れていたなので、自由時間にはみんなで海に行ったり散歩に行ったりしました。



R.5.6.23 午前、午後：診療

コミュニティセンターとこじか号にて診療を行いました。
短時間で治せないものや、今後症状がみられる恐れがある場合には、
患者さんに本土などで治療を継続する必要があることを説明しました。



R.5.6.24 午前：先生の提案で島の資源回収に参加しました。
島民の方々の分別への意識の高さに驚きました。
その後は診療を行いました。



午後：診療
診療終了後、撤収作業を行いました。
みんなで記念撮影をしました。



R5.6.25 5：10 早朝に宝島を出発しました。
約1週間にわたる離島生活が終わりを迎え寂しさを感じました。



8:15～ 平島寄港

平島中学校の中学生の学校健診を、フェリーの船内医務室で行いました。



振り返り記録

最初に到着した小宝島ではこじか号が上陸しなかったため、離島住民生活センターという公民館のようなところで、リクライニングの椅子に患者さんに寝てもらい診療が行われました。普段の大学病院の実習とは違う環境で最初は戸惑い、限られた物品、時間の中で治療を行わなければならない難しさを感じました。特に公民館の調理実習室でレントゲン撮影を行うなど、今までの常識では考えられないことも体験させていただきました。それを、診療を待っていた他の島民の方と見て、「島ならではの光景だね」と話したことはとても印象に残っています。島の話や世間話を島民の方と治療の待ち時間などに気軽にできる環境で、島のことを知ることができました。

小宝島での診療の際にはデージー（ポータブルユニット）を組み立てて使用しました。最初は慣れておらず、診療の途中で水がなくなってしまうこともあり、水を追加するために診療が中断されてしまうことがありました。それからはそのようなことはないようにできる限り水の残量に気を配るようにしました。

宝島ではこじか号が上陸していたため、こじか号の中と、コミュニティセンターで椅子を倒してデージーを用いての診療が行われました。

こじか号の中は、スペースは広くはありませんが、大学病院でのチェアで行われる診療とほぼ同じような動作をすることができました。ただし、物品や時間に限りがあることは、小宝島での状況と変わりはありませんでした。

コミュニティセンターでの診療は小宝島での診療を経験していたため比較的スムーズに動けたと思います。ただし、コミュニティセンターの前に駐車しているこじか号とコミュニティセンターの中とを物品をとりに行くために行き来するのは大変でした。

帰りのフェリーでは、平島に寄港した際に平島の中学生の学校健診を船内医務室で停泊時間内に行いました。船の中での歯科健診もなかなか経験できることではなく貴重な体験でした。

時間に限りがある中でも小宝島、宝島での診療中、数多くの診療のアシストや小中学生の学校健診、歯のクリーニングの自験の機会をいただき様々なテクニックを教えていただきました。

今回の離島巡回歯科診療の同行を体験して、私は離島での診療を行うためには医療スタッフの連携がとても重要であると感じました。コミュニケーションを取りながら準備するもの、必要なものを適

宜確認して診療になるべく時間がかからないようにできる限りの医療を提供することが離島巡回歯科診療では求められているのだなと思いました。また、何度も治療回数を設けることが出来ないため、治療法は限られてしまうというようなことも教えていただきました。

島の人たちは数少ない歯科診療を受けることができる機会なので先生方にお話を聞いたり、歯科衛生士の方に話しかけたりする人が多かったように感じました。先生方や歯科衛生士の方の島民の方とのコミュニケーションの取り方、話し方は優しく丁寧でありながら要点を絞って説明されておりとても勉強になりました。

私は離島巡回歯科診療に同行させていただくことが決まってから、フェリーで片道 12 時間近くかかる離島での約 1 週間の間、先生方、歯科衛生士の方、事務の方、同級生と私でどのような離島生活が待っているのか、とても楽しみにしていました。離島巡回歯科診療に同行させていただいてその期待していた楽しみを遥かに上回る楽しみと充実感、そして学びを得ることができました。約 1 週間の間、ご飯を食べるのも、寝るのも、診療中も、休憩時間に海へ行くのも、散歩に行くのも、ほぼ全ての時間を先生方と一緒に過ごさせていただきました。普段の実習ではありえないような近い距離感で先生方の考え方や仕事に取り組まれる姿勢を見させていただいてとても勉強になりました。

指導していただいた先生方、歯科衛生士の方、島の至る所へ連れて行ってくださった事務の方に貴重な体験をさせていただき心より感謝申し上げます。私はこの学びを糧にこれから医療に携わるものとして成長し、患者さん中心の医療を提供できる医療人になりたいと考えております。